

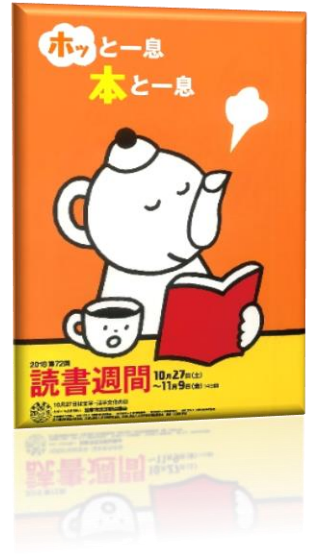
「読書週間に寄せて」

鈴鹿医療科学大学附属図書館 館長 藤原 芳朗

今年の読書週間の標語は「ホットー息、本と一息」である。IT 主流の時勢にあつて、本を手にとって一息ついて気分転換をすることの効果は読書にはある。

さて、読書週間は文化の日をはさんで10月27日～11月9日までの2週間である。読書週間の制定は、1924年（大正13年）に遡る。当時の日本図書館協会が11月の半ばから下旬に「図書週間」として設けたことを契機としている。前年の関東大震災により貴重な文献や古文書を含む多くの書物・文献が焼失したこともあり、「読書の鼓吹、図書文化の普及と良書の推薦」をテーマに実施された。第二次世界大戦で中断を経て、昭和22年「読書の力によって平和な文化国家を作ろう」という決意のもと読書週間が制定され、いまに続いている。

「本はこころのパンである」。1冊の本は、未知の世界へ、夢見る世界へと自己を投げるすばらしさがあります。あなたもホットー息ついてみませんか。



今月の新着案内

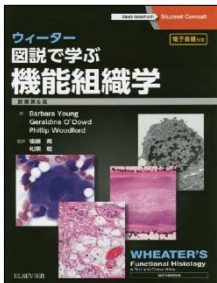
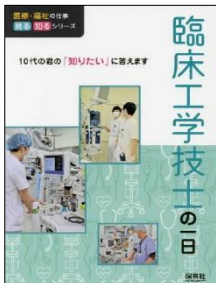
附属図書館

白子分館

『実践コンピュータビジョン』
J. E. ソレム

『ウィーター図説で学ぶ機能組織学
(原著第6版)』バーバラ・ヤング他

『スミス有機化学<下>(第5版)』
J. G. スミス



『臨床工学技士の一日』
WILL こども知育研究所

『大人の発達障害ってそういうことだったのか』宮岡 等他

『小児の急変対応』
島袋 林秀他

～両館の間での取り寄せ（デリバリー）もできます。ぜひ利用してください～

附属図書館 ●●●●

図書館開館カレンダー

●●●● 白子分館

【 11月 】

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3 閉館
4 閉館	5	6	7	8	9 17:00閉館	10 閉館
11 閉館	12 閉館	13	14 閉館	15 閉館	16	17
18 閉館	19	20	21	22	23 閉館	24 閉館
25 閉館	26	27	28	29	30	

*11月3日＝文化の日、11月23日＝勤労感謝の日

曜日等	開館時間等	行事等
月～金曜日 平常	9:00～21:00	
土曜日 休日開館	10:00～17:00	11/17 休日開館
開館時間 変更	9:00～17:00	11/9 17時閉館
日・祝日	休館	11/10～12、14～15 大学祭、推薦入試

【 11月 】

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3 閉館
4 閉館	5	6	7	8	9 17:00閉館	10 閉館
11 閉館	12 閉館	13	14	15	16	17
18 閉館	19	20	21	22	23 閉館	24
25 閉館	26	27	28	29	30	

*11月3日＝文化の日、11月23日＝勤労感謝の日

*【白子分館】11/1(木)～11/7(水)＝学外者利用制限日

曜日等	開館時間等	行事等
月～金曜日 平常	9:00～21:00	
土曜日 休日開館	10:00～17:00	
開館時間 変更	9:00～17:00	11/9 17時閉館
日・祝日	休館	11/10～12 大学祭 11/3、23 祝日

教員から学生へ推薦図書

図書との出会いは一期一会～読書週間にちなんで～



学 科：医療福祉学科
教員名：安井豊子先生

書名：『赤ひげ診療譚』
著者：山本周五郎

本書は、江戸時代に幕府が開設した貧困と疾病に苦しむ人々への医療提供の場であった「小石川養生所」を舞台に、赤ひげこと去定先生のもとで、若き医師が養生所での人々との出逢いを通して、貧困に苦しむ人々の病いと生活に寄り添う医師へと成長していく姿を描いたものである。武骨さと怒りとで、真剣に社会の不正や人間の闇に対峙する去定先生の姿に、疾病そのものだけでなく、背後にある環境にも目を向けるべき本来の医療とは何かを改めて原点に戻り考えさせられる一冊である。専門分化された現代の医療に求められる共通の視点、心理・社会的背景から病人を捉え、患者の人権保障のもとに、社会政策への提言をも含めた活動を行うソーシャルワーカーの医療チームへの参加の重要性を理解させてくれる一冊でもある。



学 科：放射線技術科学学科
教員名：武藤裕衣先生

書名：『放射線科医のものの見方・考え方』
著者：今西 好正

画像診断における読影に必要な基本的な知識が身に付けられるよう医師の読影プロセスを再現した本です。「画像読影の勉強をしたい」と考える学生さん向けに紹介します。詳細に勉強するなら、別書「〇〇の勘ドコロ」が良書です。が、今回はこちらを推薦します。理由：写真が多く、図もわかりやすい。胸部・腹部X線単純写真について説明が詳しい。CT・MRはもちろん大切ですが、「どうしてX線単純写真で側面を撮影しなければならないの？」論理的に説明できますか？胸部・腹部の項目だけでも、一読いただきたいと願います。ただ本書は、写真を目立たせるため？なぜかA3横見開きで書かれているのと、文字も詰め込みすぎ？なので、すこし見たくらゐるのが難点です。



学 科：薬学科
教員名：郡山恵樹先生

書名：『<眠り>をめぐるミステリー』
著者：櫻井 武

我々は1日24時間のうち、およそ8時間ほど睡眠に時間をとられます。しかし、人生の3分の1を睡眠に費やしているにもかかわらず、その意義をきっちりと説明できる専門家はいません。「眠らないとどうなるのか？」、「渡り鳥は寝ずになぜ何日も飛び続けることができるのか？」、「寝る子は育つのは本当か？」、「フロイトの夢診断は本当か？」など考えればたくさんの睡眠に関する疑問が出てきます。本書ではそれらの疑問の他に、睡眠の役割と脳のカラクリを分かりやすい言葉で解説しています。また、不眠症や突発性睡眠(ナルコレプシー)の最近の研究について専門外の方にもわかりやすく書かれている画期的な一冊です。



学 科：医用情報工学科
教員名：梶山純先生

書名：『冬芽を想う』
著者：全日本難聴者・中途失聴者団体連合会

おそらく「難聴者」ほどその実情を誤解されている人々はいないのではないかと。世間では、「補聴器をすればよい」、「手話を習えばよい」といった安易な発想、「耳元で大声で話す」、「何度も繰り返す」といった誤った対応、果ては、「目が見えないよりまし」、「聞こえないなら努力しろ」といった当事者の背筋が凍りつくような認識が残る。本書は、全国の難聴者とその支援者の体験談や寄稿をまとめたものである。難聴者や中途失聴者がどんな苦しみを抱えているのか、そして社会に対して何を求めているのか、ぜひ、この本を手にとって感じてほしい。健聴者と難聴者がともに手を携え真に生きやすい共生社会を作っていくためのヒントがこの本にある。

今月の展示コーナー

附属図書館

「植物と共に・・・」

白子分館

「救急・救命」あなたの判断で助かる命



編集後記



担当者よりコメント

今月号では読書週間にちなんで、先生方から、学生さんに読んでみてほしい本を選んでいただきました。普段、あまり手に取らないジャンルの新たな一面に出会えると思います。是非読んでみてください。

鈴鹿医療科学大学 附属図書館より
11月号 発行日：2018年11月5日
編集・発行：鈴鹿医療科学大学附属図書館